

令和6年度朝来市地域包括ケアシステム推進会議 議事録

日 時：令和7年2月21日（金）13：30～15：00

場 所：朝来市役所本庁舎 401 会議室

参加者：（敬称略・順不同）

中山 隆人（委員長）、須磨 正彦（副委員長）、柿沼 亘、谷口 更武、兼末 佳代子
福田 伸之、前田 恵利、吉岡 芳枝、馬庭 幸二、小森 昌彦
（事務局）笠垣 和幸、馬袋 真理子、大石 聡子、加茂川 裕子
足立 里江、藤原 正浩、有馬 真紀

欠席者：小島 茂幸

1. 開会
2. 挨拶（朝来市地域包括ケアシステム推進会議委員長 中山 隆人 ）
3. 議事要旨
 - （1） 朝来市の各種計画とシステム会議の役割について（資料1・資料2 参照）
馬袋健康福祉部次長から説明
 - （2） 各地域ケア会議の活動状況報告（資料3-①、資料3-②参照）
事務局から活動報告後、意見交換を行った。
 - （3） アンケート「私の地域課題を提案します」（資料4 参照）
事務局からアンケート結果について報告後、意見交換を行った。
 - （4） 事務局会議からの報告（資料5 参照）
事務局から活動報告後、意見交換を行った。

【各委員からの発言要旨】

（地域ケア個別支援会議について）

- ・ サービス担当者会議は、本人や家族が目標に向かって各専門職がケアチームとして取り組む会議。しかし、それでも困難な場合には「向こう三軒両隣会議」（朝来市では地域ケア個別支援会議を向こう三軒両隣会議とよんでいる）を実施し地域を含めて個別支援をみんなで考える会議を行っており、身寄りがない方に対して行うことが増えているように感じる。
- ・ 精神疾患を抱えているものの、ADL が自立しているため介護保険の対象外となる方の向こう三軒両隣会議実施件数が増加しているため、高齢者相談センターでの向こう三軒両隣会議が増えている。本人に困り感がないが、地域住民が困っている事例も取り扱っている。このような事例を今後も向こう三軒両隣会議を開催して住み慣れたまちで住み続けられるよう支援してほしい。

- 地域の方はすぐに施設（排除）を考えがちだが、話し合いを通じて、実際の問題が「食事の支援が必要」といった明確なものに整理され、地域で見守る意識に変化した事例もあり、今後も地域ケア会議を実施していきたい。

（地域ケア推進会議について）

- 「お宝見える化マップ」は、冊子では更新が難しいため、デジタル化を検討してはどうか。1年に1回は更新するのが望ましい。「公民館に行って集いの場に参加する」ことを目標に訪問リハビリを活用し、デイサービスの利用を検討するのも一案。地域資源の活用や、地域活動の活性化のため、「いきいき、わくわく」の意識を維持する必要がある。
- 介護保険サービスの利用開始後、地域の集いの場から離れてしまうケースがある。対象者が入院したため実施には至らなかったが、ミニデイサービス利用中のトイレ介助の問題が発生し、「みんなで介護の勉強をしよう」となった地域もあった。生活支援コーディネーターとしてこのような取り組みを進めていきたい。
- 地域の活動が衰退していく傾向があるため、対策が求められる。
- 旧町の地域特性を活かした総合事業サービスをモデル的に実施することを考えている。

（アンケート「私の地域課題を提案します」について）

- アンケート結果に対して現状を示して終わりにするのではなく、具体的な施策につなげる必要がある。
- 外出支援サービスは介護を要する方の受診を目的とするサービスで、福知山や丹波市まで受診できるようにしている。八鹿病院、朝来医療センター、民生委員などに「ふくしのしおり」を配布して周知している。また、9つの自治協議会で月1回の集いの場（元気アップいこいの場事業）を行っており、移送できるサービスを実施している自治協議会もある。
- 生野町で1年間実施したデマンド交通の課題として、自力で乗降できる方のみが対象となっている。デマンド型交通は使いやすいが、運転手にヘルパー資格を取得してもらうとさらに利便性が向上するので検討してほしい。デマンド交通の利用料金や利便性の認知度が低いいため周知が必要。また、介護施設の老朽化が進んでいる。養父市では修繕費の捻出が難しく閉鎖した施設もあるため、朝来市でも同様の事態を防ぐための対策を検討してもらいたい。

（事務局会議からの報告について）

- 共生サービスについて、市として障害部門からの方向性を示してほしい。

（介護人材アンケートの実施について）

- 管理者へのアンケートを実施する際、施設の老朽化や利用者の変化についても調査項目に加えるべきではないか。